

（6）木曾地域 ～木曾らしく、農業の個性を高め、伝統食で人をつなぐ～**達成指標の進捗状況**

重点取組	達成指標	現状 (2016年)	2022年		目標 (2022年)
			計画	実績	
1	新規就農者数 (45歳未満・計画期間累計)	8人	10人	11人	10人
	定年等帰農者の数(計画期間の累計)	6人	15人	15人	15人
2	御嶽はくさい出荷量	38.3万c/s	40万c/s	30.3万c/s	40万c/s
	御嶽はくさい出荷額	4.6億円	5.3億円	3.71億円	5.3億円
	1戸当たり子牛出荷頭数	5.47頭	6.00頭	5.82頭	6.00頭
3	販売額1千万円以上の園芸品目	8品目	9品目	4品目	9品目
	米の1等米比率	63%	90%	78.3%	90%
4	G I すんきの製造量	0t (37.7t [※])	50t	24.9t	50t
	6次産業による商品化数	7品	12品	12品	12品
5	野生鳥獣による農作物被害額	17,271 千円	12,000 千円	11,685 千円	12,000 千円
	荒廃農地の解消面積	22ha	40ha	13.8ha	40ha
	中山間地域農業直接支払事業による農地等保全活動面積	389ha	389ha	371ha	389ha
	地域ぐるみで取り組む多面的機能支払事業の活動面積	346ha	346ha	268ha	346ha
6	生産性を高める農地の条件整備	814ha	829ha	820ha	829ha
	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	2.4kw	90kw	167.4kw	90kw
	新たに観光資源として整備する農業施設数	－	2箇所	2箇所	2箇所

※H28にG I登録されてことを想定した場合の推定製造量

重点取組1：木曾農業を支える経営体と人材の確保・育成

- 就農相談会、移住・定住フェア等での木曾農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進
 - ・ 木曾青峰高校での「農業農魅力発見セミナー」の開催（3回103人）
 - ・ はくさい産地の新規就農者確保に向けたweb就農相談会（1回）
 - ・ リーフレットの作成配布（100部）
- 農業入門講座（基礎・実践）の開催による定年帰農者等の支援
 - ・ 定年退職者等へ農業入門講座を開催し就農に必要な技術習得を支援【入門講座実践コース】（講座14回、受講者10人）

**重点取組2：木曾農業ブランドの「御嶽はくさい」、「木曾子牛」の生産振興**

- 意欲ある経営体の育成や高齢農家等への作業支援体制づくり
 - ・ 労働負荷軽減アシストスーツの装着マニュアルの作成、効果確認試験アンケート調査による検証。（6件）
 - ・ カットブレイカーによる排水性改善検討、炭そ病発生警報WEBサイトの開設による情報提供
- 新規就農者等支援による子牛出荷頭数確保
 - ・ 畜産クラスター計画（新規1、変更3）機械導入支援（2戸）、増頭12戸23頭



【アシストスーツの検討】

重点取組 3：特色ある「稼げる」農業の推進

- 消費者ニーズに基づく推進品目及び経営モデルの検討
 - ・ 啓翁桜の早期出荷、増収試験ほ設置（日義地区）、新規花木品目（アメリカテマリシモツケ、ノリウツギ）の試験ほ設置（大桑村）
- 農産物直売所、農産加工施設の経営改善と人材育成
 - ・ すんき協、加工連における HACCP 研修会の開催（1 回）、JGAP 認定取得支援（1 法人）
- 害虫防除等栽培管理の徹底と米穀乾燥調製施設の機能強化による 1 等米比率向上
 - ・ マルチローター防除におけるカメムシの防除効果試験を実施（大桑村 3 剤）



【啓翁桜の試験検討】

重点取組 4：木曽の本物を味わう食と食し方の提供

- 生産行程管理記録と適正表示の徹底、加工技術の向上
 - ・ すんき協会員への生産工程管理業務の現地確認指導（21 件）品質評価会（1 回）開催
- すんきの原料である、かぶ菜の品質向上・生産拡大
 - ・ 赤かぶ等伝統野菜の栽培研修会（2 回）すんき品評会（1 回）、「はっこうのがっこう」（講演会）の開催
- 木曽ならではの商品振興及び観光と連携した地域活性化
 - ・ 木曽の伝統食材スタンプラリーの開催。（木曽牛、すんき、そば取扱い 31 店舗参加）



【小学生すんき体験】

重点取組 5：住民参加による元気な村づくり

- 捕獲・防除・環境整備を組み合わせた野生鳥獣被害対策支援
 - ・ 鳥獣対策講習会（木祖村、大桑村各 1 回）、交付金活用による被害防止対策支援の実施（6 町村）
- 荒廃農地解消の取組支援
 - ・ そばの収量安定に向けた夏そば、秋そば栽培指針の作成配布と成熟期予測に基づく適期収穫の励行
- 多面的機能支払制度により農地や水路等の保全活動を行う組織への支援と P R
 - ・ 研修会の開催による制度周知を実施（7 月、上松町）
 - ・ 事務手続きに関する研修会、水路等の維持補修に関する講習会開催（7 月、上松町）



【鳥獣対策講習会】

重点取組 6：元気な村づくりのための農地の条件整備と農村資源の活用

- 中山間地のほ場・用排水路・農道の整備
 - ・ 中山間総合整備事業により、上松町野尻工区 A=5.5ha の圃場整備を実施
- 小水力発電施設の整備推進及び技術的支援
 - ・ 県営中山間事業により上松町吉野工区(132kw)を建設
- 農業資産等を観光資源として活用するための案内看板や遊歩道の整備
 - ・ あやめ公園（木祖村）の遊歩道を県営中山間総合整備事業で実施に向け、計画を策定



【上松町ほ場整備】

木曽地域の発展方向

上松町、南木曽町、木曽町、木祖村
王滝村、大桑村

未来につながる木曽の豊かな農業・農村と食

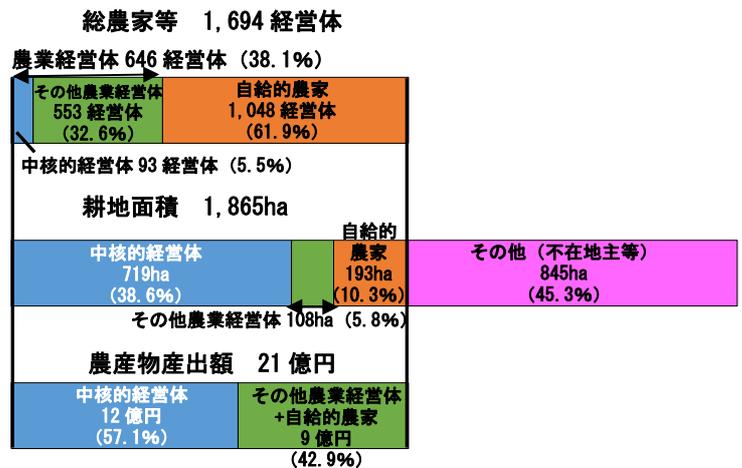
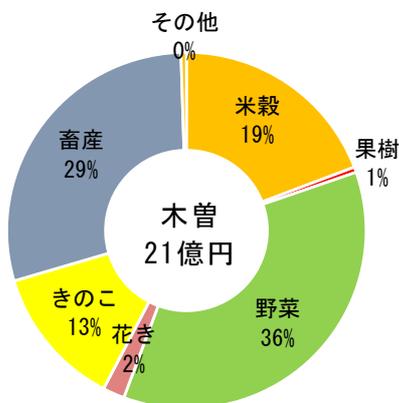
農業・農村の特徴

木曽川の本支流沿いには、小区画な農地が点在し、水稻、そば、飼料作物などの営農が中心となっています。一方、木曽町開田高原や木祖村西山地域にはほ場整備された優良農地が広がり、夏季の冷涼な気候を生かした「御嶽はくさい®」等の高原野菜や、そばの産地が形成されています。畜産は古くから「木曽子牛」として全国供給される産地です。

日本遺産木曽路に登録された文化財や、自然豊かな景勝地には大勢の観光客等が訪れ、飲食店では地元で根付き守られてきた食文化（木曽牛、そば、すんき、赤かぶ、ほおぼまき等）で来訪者をもてなしています。

一方、木曽地域全体で、少子高齢化に伴う産業の担い手不足が進行し、地域機能の維持が重要課題となっています。

【2020年】（2020農林業センサスから推計）



めざす姿

I 皆が憧れ、稼げる木曽の農業

- 担い手への農地の利用集積や、新規就農者が円滑に農地の確保を行うための「地域計画」が作成され、農地の有効活用が図られています。
- 「御嶽はくさい®」、「木曽牛」の産地では農業DXが進み、多様な担い手が活躍しています。
- 地域に根差した飼料生産と、新たな技術（スマート農業技術等）を導入した安定的な畜産（和牛子牛出荷）が行われています。
- 木曽を愛する多様な担い手が活躍し、新たな品目の生産が拡大しています。（野菜・花き・えごま等）
- 実需者が求める品質・数量の米、そばが安定供給されています。

II しあわせで豊かな暮らしを実現する木曾の農村

- DXが進展し、木曾を楽しむ半農半X、定年帰農者等多様な担い手が活躍し、農村集落との関わり合いが強まっています。
- 自然災害や野生鳥獣被害の少ない安全安心で豊かな農村環境（景観）を維持しています。

III 魅力あふれる木曾の食

- 木曾地域を訪れる観光客等をおもてなしする飲食店、農産物直売所や加工所と連携した、伝統的食材が安定供給されています。
- 子どもたちが木曾の伝統食材に触れ、農業・農村の大切さを将来につなげる活動が行われています。

施策の展開方向

I 皆が憧れ、稼げる木曾の農業

重点取組1 多様な担い手が支えあう木曾の農業・農村

農業従事者の高齢化が進行しており、経営の継続が困難な農家が増加しています。担い手不足は、農業生産量の減少や遊休荒廃地の増加だけでなく、集落機能の維持にも影響を及ぼしています。

「人・農地プラン」の法定化に伴い、市町村が担い手への農地の集約化を明確化した「地域計画」の策定が義務付けられました。

新規就農者は、年間2名程度を確保していますが、木曾地域の実情を考慮しながら、I・Uターン就農や定年帰農者等の多様な担い手の確保を図ります。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
「地域計画」の策定数	—	22
新規就農者数（49歳以下）	3人/年	1人/年

【具体的な施策展開】

- 地域の関係者が一体となって話し合い、めざすべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の策定・実行を支援
- 就農相談会、移住・定住フェア等での木曾農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進
- 新規就農里親研修事業等を活用した新規就農者の育成
- 農業入門講座の開催による定年帰農者への支援
- 高校と連携した食の魅力発信と、高校生の就農への意欲を向上



【研修生への個別支援】

重点取組 2 木曾ブランドを支える産地づくり（土地利用型作物、園芸品目、畜産の振興）

農業者の高齢化や担い手不足による生産力等を補うため、地域農業のDX、スマート農業等、新技術の積極的な導入により、立地条件を活かした「御嶽はくさい®」「木曾子牛」の木曾ブランドに加え、マーケットニーズに応える産地（良質米、花き・花木類）強化を推進します。

【達成指標】

項目	2021年度 （現状）	2027年度 （目標）
米の1等米比率	78.9%	85%
「御嶽はくさい®」栽培面積	50ha	45ha
「木曾子牛」出荷頭数	5.7頭/戸	6.0頭/戸
花き・花木類の栽培面積	2.3ha	2.4ha

【具体的な施策展開】

- 斑点米カメムシにおける病害虫防除組合の**農業用**ドローンによる適期防除支援と生産者への防除基本技術の徹底及び、収穫適期情報の提供による適期収穫の推進での1等米比率向上
- スマート農業技術等の導入による「御嶽はくさい®」の品質及び生産性の向上
- 畜産クラスター協議会と連携したクラスター事業の推進
- 地域に適応した花き・花木の生産支援



【農業用ドローンによる防除】

II しあわせで豊かな暮らしを実現する木曾の農村

重点取組 3 みんなが生き生き暮らせる、持続可能な農村づくり

野生鳥獣害による農作物被害は、農産物の生産を減少させるだけでなく、農業者の耕作意欲を減退させ、農地の荒廃化に繋がり、農地や農村環境が持つ多面的機能を低下させ、地域の集落機能にも影響を及ぼしています。

農地や農村環境の維持や野生鳥獣害対策等について、農業者だけでなく多様な地域住民が協力して行う地域活動や体制づくりを支援します。

また、農業用水等の地域資源を活用した小水力発電施設の整備により、持続可能な農村づくりを推進します。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
野生鳥獣による農作物被害額	12.8 百万円	11.8 百万円
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	493ha	489ha
農業用水を活用した小水力発電の設備容量	34.4kw	366kw

【具体的な施策展開】

- 関係者一丸となった捕獲、防除、環境整備等の野生鳥獣被害対策の推進
- 多面的機能支払事業及び中山間直接支払事業の一層のPRによる取組拡大と活動支援
- 多面的機能支払事業の事務手続き研修会、水路等の維持補修に関する講習会の開催
- 農業用水を活用した小水力発電施設の整備推進及び技術的支援



【上松町吉野発電所】

Ⅲ 魅力あふれる木曾の食

重点取組 4 木曾ならではの食による地産地消と食育の推進

木曾の伝統食である木曾牛、伝統野菜やすんき、そば等を「木曾ならではの食」として次代に継承していくため、さらなる地元の理解と地産地消を進めるとともに、観光客や郡外へのPRを推進します。

【達成指標】

項目	2021 年度 (現状)	2027 年度 (目標)
伝統食材提供店舗数 (木曾牛、すんき、木曾産そば)	57 店	60 店
伝統野菜の栽培面積 (王滝蕪など 6 品種)	2.1ha	2.1ha

【具体的な施策展開】

- 「木曾ならではの食材」を扱う店舗と連携した木曾地域の魅力発信
- 担い手不足や形質の保存等生産組織毎の実情に応じた
伝統野菜の継承支援による栽培面積の維持
- 小学校・中学校を対象とした食育授業等による地元農畜産物への
理解促進と地産地消



【木曾の赤かぶ】

(6) 木曽地域 ～ 未来につながる木曽の豊かな農業・農村と食 ～**■ 達成指標**

重点 取組	達成指標	現状 (2021(R3)年)	計画 (2023(R5)年)	目標 (2027(R9)年)
1	地域計画の数	0	22	22
	新規就農者数(49歳以下)	3人	1人	1人
2	米の1等米比率	78.9%	83%	85%
	御嶽はくさい栽培面積	50ha	49ha	45ha
	木曽子牛出荷頭数	5.7頭/戸	5.9頭/戸	6.0頭/戸
	花き・花木類の栽培面積	2.3ha	2.3ha	2.4ha
3	野生鳥獣被害額	12.8百万円	12.5百万円	11.8百万円
	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	493ha	489ha	489ha
	農業用水を活用した小水力発電の設備容量	34.4kw	366kw	366kw
4	伝統食材提供店舗数(木曽牛、すんき、木曽産そば)	57店	58店	60店
	伝統野菜の栽培面積(王滝蕪他6品種)	2.1ha	2.1ha	2.1ha

重点取組1：多様な担い手が支えあう木曽の農業・農村

- 地域の関係者が一体となって話し合い、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の策定・実行を支援
 - ・町村毎の地域計画策定の工程表に基づく推進。(各地区)
 - ・農業委員会等の農地最適化支援、関係機関連携(支援チーム)による話合等支援。
- 就農相談会、移住・定住フェア等での木曽農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進
 - ・PR用パンフレット(R4年度作成)を活用した就農相談会等の開催による新規就農者の確保(相談会1回以上)
- 新規就農里親研修事業等を活用した新規就農者の育成
 - ・農業次世代人材投資事業等の活用による新規就農者の育成支援(新規1～5年目就農者6名)
- 農業入門講座の開催による定年帰農者への支援
 - ・農業入門講座の開催による直売所等への農産物出荷者の増加。(定年帰農者等3名以上)
- 高校と連携した食の魅力発信と、高校生の就農への意欲を向上
 - ・木曽青峰高等学校と農業者の連携による「農業の魅力発見セミナー」の開催。高校生の地域農業や地場産品の魅力の理解推進(講座3回)

重点取組2：木曽ブランドを支える産地づくり(土地利用作物、園芸品目、畜産振興)

- 斑点米カメムシにおける病害虫防除組合のドローンによる適期防除支援と生産者への防除基本技術の徹底、及び収穫適期情報の提供による適期収穫の推進で1等米比率向上
 - ・斑点米の減少に向けたドローン防除における新規登録薬剤の効果検証。
 - ・カメムシ発生情報の提供による防除の啓発。登熟積算気温情報に基づく適期収穫の啓発。(7~8月)
- スマート農業技術等の導入による御嶽はくさいの品質及び生産性の向上
 - ・はくさい作業負荷軽減に向けた栽培作業ごとのアシストスーツの効果検討。(6~9月)
- 畜産クラスター協議会と連携したクラスター事業の推進
 - ・郡内畜産クラスター協議会における補助事業(機械導入事業、施設整備事業、生産基盤拡大加速化事業)を活用した畜産農家の経営発展(5協議会)
 - ・繁殖和牛の飼養管理技術向上を目的とした講習会の開催(冬期に1回)
- 地域に適応した花き・花木の生産支援
 - ・啓翁桜の栽培周期短縮に向けた花芽早期着生技術の試験ほ場の設置(日義地区)
 - ・新規花木品目(5品目)の試験ほ場の設置と生育状況調査の実施(上松町、王滝村、大桑村)

重点取組3：みんなが生き生き暮らせる、持続可能な農村づくり

- 関係者一丸となった捕獲、防除、環境整備等の野生鳥獣被害対策の推進
 - ・鳥獣被害防止対策交付金事業の活用と、既設の電気柵及び侵入防止柵の点検巡回による被害軽減の推進(6協議会)
 - ・電気柵等の適切な設置及び獣害駆除に向けた講習会の開催(冬期1回)
- 多面的機能支払及び中山間直接支払事業の一層のPRによる取組拡大と活動支援
 - ・取り組み組織数の維持及び新たな取り組み拡大のための制度周知と活動の支援(23組織)
- 多面的機能支払事業の事務手続き研修会、水路等の維持補修に関する講習会の開催
 - ・事務手続きに関する研修会、水路等の維持補修に関する講習会の開催(2回)
- 農業用水を活用した小水力発電施設の整備推進及び技術的支援
 - ・管理運営方法等研修会への参加と各種調整における技術的な支援(大桑村他)

重点取組4：木曾ならではの食による地産地消と食育の推進

- 「木曾ならではの食材」を扱う店舗と連携した木曾地域の魅力発信
 - ・関係団体等と連携した伝統食材の魅力発信方法の検討
- 担い手不足や形質の保存等生産組織ごとの実情に応じた伝統野菜の継承支援による栽培面積の維持
 - ・根こぶ病の軽減に向けた土壌分析等に基づく土づくり、防除方法等の勉強会の開催(王滝村1回)
 - ・赤かぶの採種及び栽培状況把握のための定期巡回の実施(6品種)
- 小中学校を対象とした食育授業等による地元農産物への理解促進と地産地消
 - ・関係団体等と連携した食育授業の実施